

令和7年度主要事業の成果

支出科目	款：商工費 項：工鉱業費 目：工鉱業振興費	領域	産業イノベーション
担当課	イノベーション推進チーム	取組の方向	③ イノベーション環境の整備
事業名	ひろしまサンドボックス事業（一部国庫）		

目的

新たなデジタル技術やビジネスモデルを活用し、産業や地域における課題解決に向けた実証を、県内外の民間企業等との共創により行い、県内への実装と横展開を目指すことを通じて、イノベーションを創出する企業や人材の集積を図る。

事業説明

対象者

県内外の企業、大学、自治体等

事業内容

(単位：千円)

内 容	当初 予算額	最終 予算額 ※	予算 執行額 [繰越額]
規制緩和等 に向けた実証 (サキガケプ ロジェクト)	36,000	34,000	33,751 [—]
開発・実証モ デルの実装 (ひろしまサ ンドボックス 実装支援)	60,000	60,000	59,602 [—]
A I を活用し たソリューション開発支援 (ひろしまA I サンドボッ クス)	225,000	(債務 225,000) 244,153	235,302 [—]
ひろしまサ ンドボックス 推進協議会 の運営	12,866	13,866	11,100 [—]
合 計	333,866	(債務 225,000) 352,019	339,756 [—]

※端数処理の関係で積み上げた数値と合計額が異なる場合がある。

※令和7年度9月補正予算を含む。

令和 7 年度の成果目標と実績

○ ワーク目標：

指 標 名	基準値	目標値	実績値
イノベーション実現企業率	42% (令和 5 年度)	45% (令和 7 年度)	45% (令和 7 年度)
イノベーション活動実行企業率	54% (令和 5 年度)	50% (令和 7 年度)	55% (令和 7 年度)
(参考) ひろしまサンドボックス推進協議会会員数	3,304 者 (平成 30～令和 5 年度累計)	3,500 者 (平成 30～令和 7 年度累計)	3,556 者 (平成 30～令和 7 年度累計)
(参考) 県の取組により事業計画を策定又はプロダ クトを開発した人・企業の数	96 者 (令和 3～5 年度累計)	120 者 (令和 3～7 年度累計)	220 者 (令和 3～7 年度累計)
(参考) 県内公的機関におけるデジタル技術等を活 用した商品・サービスの実装件数	1 件 (令和 5 年度)	10 件 (令和 7 年度)	17 件 (令和 7 年度)
(参考) A I コミュニティ参加者数	—	40 者 (令和 7 年度)	40 者 (令和 7 年度)

○ 事業目標：

指 標 名	基準値 (令和 5 年度)	目標値 (令和 7 年度)	実績値 (令和 7 年度)
県内公的機関における実証・効果検証の実 施件数	26 件	30 件	33 件
A I を活用したソリューション開発・実証 の実施件数	—	20 件	19 件

令和 7 年度の目標と実績の乖離要因・課題

- 「ひろしまサンドボックス実装支援事業」の県内市町における実証・効果検証については、事業への参加市町が過去最多の 16 市町となり、40 件の地域課題を提示できたことに加え、令和 5 年度から継続的に実施してきたことで、県内外のスタートアップ等への本事業の認知が広がり、296 件のソリューションが提案され、目標を上回る 33 件の実証・効果検証の実施につながった。さらに、県内市町におけるデジタル技術等を活用した商品・サービスの実装件数の拡大については、成果発表会を開催して県内市町へ実証成果を共有するとともに、高い効果が確認されたソリューションをカタログ化し、周知したことにより、目標を上回る 17 件となった。引き続き、一過性の実証にとどまることなく、開発・実証したソリューションの本格導入及び他市町への横展開を促進する必要がある。
- 「ひろしま A I サンドボックス」の A I を活用したソリューション開発・実証の実施件数については、計 10 回の事業説明会の開催や、県公式 SNS、各種メディアを通じた情報発信により、県内企業等から募集した A I を活用して解決したい課題を 143 件、県内外の A I 開発者から募集した広島で開発・実証を進めたいアイデアを 123 件集めることができた。その上で、県内企業等と A I 開発者との間で 251 件のマッチングが成立し、19 件の開発・実証を行った。今後、全国で類似の取組が広がることが見込まれる中、A I 開発者にとって魅力的な開発・実証フィールドとして広島

県を選んでもらうためには、新規性・創造性の高い案件を継続的に創出するとともに、開発・実証の成果を効果的に発信していく必要がある。

- これらの取組の寄与により、「イノベーション実現企業率」、「イノベーション活動実行企業率」は、昨年度に引き続き、目標を達成した。一方で、広く県民や国内外の人々が「イノベーション立県・広島」を実感できるような象徴的な事例やプロダクトの創出には至っておらず、引き続きその創出に取り組む必要がある。

令和８年度取組方向

- 「規制緩和等に向けた実証（サキガケプロジェクト）」については、国の支援制度（規制のサンドボックス制度、グレーゾーン解消制度、新事業特例制度等）が拡充されていることを踏まえ、県による開発・実証経費の支援を終了する。
- 「開発・実証モデルの実装（ひろしまサンドボックス実装支援事業）」においては、定額補助から補助率を設定し、事業者に一定の自己負担を求める仕組みに変更することで、公共市場参入に係る初期負担を軽減しつつ、公共市場への参入意欲の高いスタートアップ等からのソリューション提案を促進し、実装の確度を高める。
- 「ＡＩを活用したソリューション開発支援（ひろしまＡＩサンドボックス）」においては、より新規性・創造性の高い案件を採択するとともに、開発・実証の成果を効果的に情報発信することで、ＡＩ開発者の更なる集積を図る。